



TIAニュース



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association

やあ!

1998
MARCH
No.54

3

市町村文化財紹介 栗野町

双体道祖神

道祖神は旅人を守るとともに、男女和合の神であることが「天孫降臨」の神話に伝えられる。

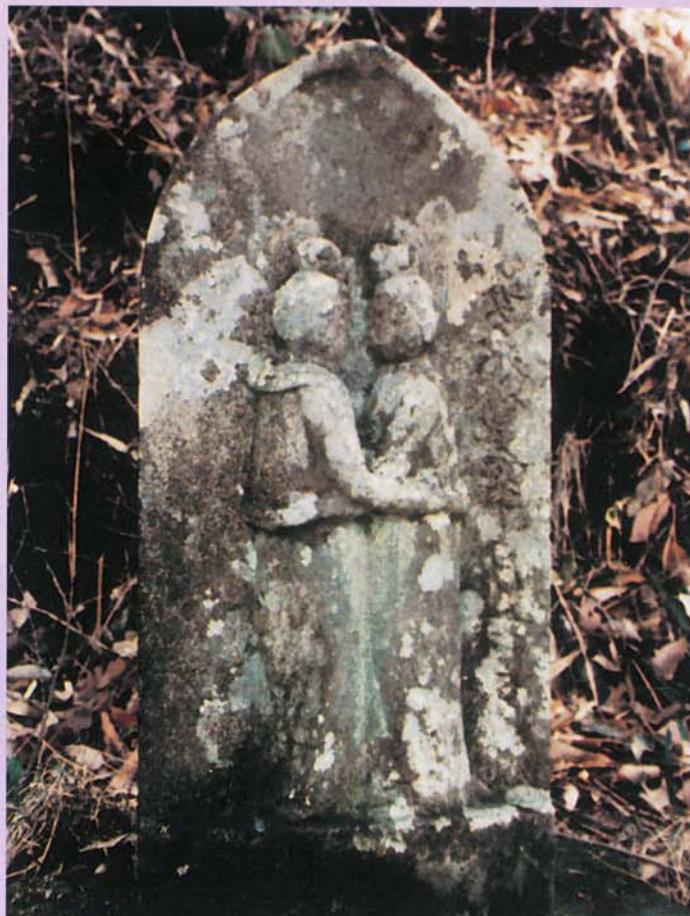
栗野町柏尾の双体道祖神は、信濃（長野県）から上野（群馬県）を経て導入されたと考えられている。

これらは1764年から1834年に建立されたものである。

Sotai Dososhin (Travelers' and Couples Deity)

According to the myth "Tenson Korin", this deity is known to not only protect travelers but also help unify men and women. Sotai Dososhin in Kazuo, Awano-machi is believed to have been transported from Shinano (Nagano Prefecture) through Kozuke (Gunma Prefecture) to its present location.

It was built between 1764 and 1834.



青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介 シリーズ NO. 9

ラオス

カメラルポ

外国文化体験講座 世界と遊ぼう

とちぎコミュニケーションネットワークの集い

- ◆ J E T コーナー 外国語指導助手 ブライアン・カーンさん
- ◆ トピックス 南米移住者子弟短期研修生が来県
- ◆ 国際交流団体紹介 栃木フィリピン人協会
- ◆ こんな店あんな店 フランス料理 ボルドー

TIAホームページ

URL <http://www.pto.co.jp/tia>

JETコーナー

外国語指導助手
ブライアン・カーンさん
(アメリカ出身・22歳)



私はサイクリングのとりこです。夏には、時間を忘れ気の向くままに自転車を走らせ、益子町周辺の村や町の探検を楽しめます。山々や谷に囲まれているこの地で、時として私はこの美しさに心をうば

われてしまいます。帰宅が遅くなってしまうこともあります。途中寄り道をして食事をして帰ったりします。

私の生徒の祖父母の経営するお店に寄ることがあります。ある日、餃子と焼酎をごちそうになり、うちの孫だけはよろしく頼むといわれました。彼らは私がえこひいき

をしないということや拳銃をもっていないということが理解できないようです。

こんなこともありました。1時間程いったところにある山に囲まれた人口千人にも満たない町にあるレストランでの出来事です。その経営者は外国人を見たこともないような人で、私にお昼をごちそうしてくれたのですが、これには彼らの娘さんと出来れば結婚してほしいという下心があったのです。今まで何度もこのレストランで食事をしてはいますが、その娘さんにお目にかかったことはありません。

帰宅途中、いろんな形で挨拶をしてくる生徒に出会います。なかには気にさわる言葉をかけてくる生徒もいますけど、時には立ち話をしたり、またある時は、帰宅が遅くなつて両親からしかられるのではないかと思うぐらい長く話をします。そして途中、生徒達が微笑んできたり、お辞儀してきたりするのを見て、この町で自転車に乗るというのはなんと楽しいことなんだろうと思ひます。私はこの町がとても気に入っています。

Brian Curran

I love to cycle. In the summer I sometimes cycle for hours. Not paying attention to the time or what roads I take, I explore the towns and villages that surround Mashiko. There are many mountains and valleys here; I have

sometimes been lost in their beauty. Since I often get home long after dark, I sometimes stop to eat along the way.

One particular stop is owned by the grandparents of one of my students. Once, after being treated to gyooza and shochu, I was made to promise that I would treat their granddaughter especially nice. They could not understand that I treat all my students like this, but they also could not understand that I do not own a gun. There is another restaurant an hour into mountains in a tiny burg with a population of less than 1000. The proprietors had never met an actual gaijin before. That lunch was on the house too, but for a different reason: they wanted me to meet and possibly court their daughter. To this day, though I have eaten at that restaurant many times, I still have not met the daughter.

On the road home, I meet many of my students who call out a greeting of one form or another. Sometimes I stop and we talk for a bit. Sometimes we talk until they are no longer comfortable that their parents will not kill them. As I continue home past the townsfolk who smile and bow, I think how much fun it is to have a bike here. I love to cycle in this town.

TOPICS トピックス

南米から短期研修生が来県

栃木県から南米に移住した人々の子弟を本県に招待し、親や祖父母の生まれた国を知ってもらう「栃木県南米移住者子弟短期研修生受入事業」が、1月28日～2月16日の約3週間実施された。

訪問団は、パラグアイ県人会の笹沼道男



▲前列左から笹沼団長、TIAの大江理事長、後列左から篠田さん、及川さん、笹沼さん、幅上さん、高野さん



仏国・ヴォークリューズ県に 高校生が出発

栃木県と友好交流を続けているフランス・ヴォークリューズ県で高校体験通学やホームステイを行う栃木県高校生フランス派遣団員が、3月10日に出発した。一行は3月23日に帰国する。〔団長：小関暁美（栃木県国際交流課主事）、団員：倉井孝明（宇都宮高校2年）、白井七重（栃木女子高校2年）、相馬郁美（黒磯南高校2年）、橋本綾子（宇都宮海星女子学院2年）、松下恵（鹿沼高校2年）〕敬称略



▲前列左から倉井、白井、相馬、後列左から橋本、松下、小関

カメラルポ

外国文化体験講座 世界と遊ぼう

外国文化を県民に知ってもらうため、去る2月1日（日）、ちぎ国際交流センターで「外国文化体験教室～世界と遊ぼう」を開催した。

内容はモロッコ料理、アメリカの歌と踊り、ブラジルの歌とコーヒー、ボリビアの民族衣装と歌、フランスのゲームと歌、ニュージーランドのクイズ、中国の太極拳。栃木県の海外技術研修員、CIR、ALT、そしてTIAの文化交流サービスバンクのメンバーの方々に講師として協力していただいた。

会場には約70名の県民が集まり、実際に参加して、様々な国の文化を楽しんだ。



▲栃木県CIRのレティシアさん（右端）と一緒に、フランスの「アヴィニョンの橋と上で」の歌と踊りを練習



▲モロッコ料理講習会で、技術研修員のゾラさん（中央）が作り方を指導



▲できあがったモロッコ料理。右がタジン（魚の煮込み）、左がシュバキア（デザート）



▲ブラジルからの技術研修員のテニソンさんがブラジルの曲を弾き語り

▲アメリカの紹介。羊の鳴き声は「baa」と説明する栃木県CIRのユカリさん（左）と南那須町CIRのケイティさん（右）



▲ボリビアの民族衣装を着て、技術研修員のサンデルさん（中央）とボリビアの歌を歌う



▲TIAボランティアバンクの李建帽さん（手前左）と師範の阿部紀久子さん（2列目左）の指導で中国の太極拳を実演



▲ニュージーランドからのALT・ヘイミッシュさん（右）とシャロンさん（左）がニュージーランドに関するクイズを披露

ラオス LAO

インドシナ半島の中央部に位置するラオス。国土の3分の2が森林で、木材は輸出されている。最も重要な産業である農業（稻作）は、北部から西部にかけて流れるメコン川流域で行われている。またメコン川の水力発電による電力はタイに輸出され、ラオスの輸出品の第1位となっている。

国名の「ラオ」は「人びと」を意味する。仏教信仰が強く、日常的に托鉢僧への供物等が行われている。

案内人

大森伸一さん（26歳）無職（南那須町在住）



大学で農業土木を学んでいたとき、就職する前に海外で自分の力を試してみたいと青年海外協力隊参加を決意。技術補完訓練のため筑波国立農業研修センターで研修を受け、大学卒業後、ラオスの首都ビエンチャン等で農業土木技師として1994年7月から1997年7月までの3年間活躍する。現在、土木・建設関係の仕事を探している。

壊れたままの灌漑施設

私は農林省灌漑局に配属され、最初の2年間をラオスの首都ビエンチャンで、あと1年をラオス第2の都市サバンナケートで、灌漑施設の維持・管理等の技術指導を行いました。

農業がメインのこの国では、灌漑はとても重要です。だから灌漑施設が稼働しなくなると大変です。私は、ダム、ポンピングステーション等（川から水を上げて灌漑する）を訪れ、施設の状況を調べます。そして故障している場合は、どのように直したらよいのかをアドバイスします。つまりメンテナンスです。自分たちでは直せないので、壊れていても放置しておくことが多いんですね。こうした技術不足に加えてお金不足の問題もあります。だから水路の故障を見つけても、村の共同体の財政が苦しいためになかなか直せないということもあります。今後しっかりした組織を作っていく必要があります。

また、農地造成や水利等のプロジェクトも手伝います。大雨で橋や道が流され、水路が破壊されたときは、2ヶ月ぐらいかけて修理したりしました。

日本のODAや欧米からの援助で灌漑施設は造られています。先程言いましたが、

技術がないためメンテナンスも分からず、また壊れても直すお金がないのでそのままの状態。みんな「いつかどこかの国が直してくれるだろう」と思っているようです。こうした依存体質がしみついで、援助なしではやっていけないという「甘え」がはびこっています。各農家や農村共同体が、自分たちで灌漑施設を作り、管理していくなければ、いつになっても同じことの繰り返しになってしまいます。農村のリーダーたちがメンテナンスの技術を学び、灌漑施設管理の重要性を感じてほしいと思います。

実際、灌漑施設のお蔭で農作物の収量が増加したことを知ると、回りの人たちもぜひやりたいと考えるようになります。この波及効果が技術力向上に繋がってほしいですね。

この3年間の協力隊活動を通して、農業土木を現場で学べたこと、また日本では事業の細分化が進み、なかなかプロジェクトの全体像が見えませんが、ここラオスで一つのプロジェクトを1年を追って見ることができたことは、大変になりました。その他、特に3年目ですが、より農家に近づき人びとと交流することで、農家の力を借りないとプロジェクトは進まないことを知ったことも重要です。人との出会いは、私にとってとても素晴らしいことでした。

輸出のトップは電力

ラオスは共和制ですが、基本的には一党独裁の社会主义経済体制をとっています。でも、近年市場経済化が進み、タイ、中国、ベトナムから物が豊富に輸入されるよ



▲ある家族に招待され食事を出してもらう

うになりました。自国で生産されるものはこれといってなく、お菓子や野菜までも輸入されています。お店ではUSドル、タイバーツはそのまま使えます。もちろんお釣りは現地のお金「キープ」で返ってきますけど。

国土の半分以上を占める森林地帯は、鉱物資源をもたないラオスにとっては貴重な天然資源であり、チークなどの高級材等が輸出されています。また、メコン川支流の水力発電所で生産される電力はタイに売られ、輸出品目のトップとなっています。現在も輸出用電力のためのダムが造られています。

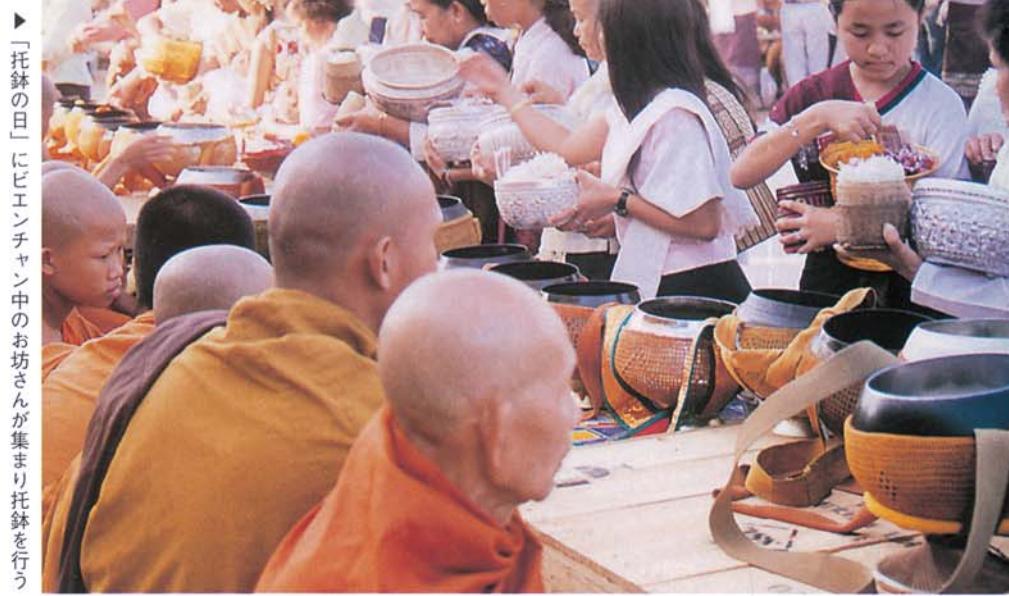
経済的な繋がりが一番深いのは、やっぱり隣国のタイでしょう。でもタイ側はラオスのことをタイの一部のような見方をしている人もいるようです。



食べ物についてですが、主食はもち米で蒸かして食べます。日常的に食べるものは、ラープ（肉炒め）、ナマズやティラピアなどの川魚、焼きとり、唐がら



水路の内側面を固める作業をする



しを漬けこんだナムブラー（魚醤）などです。意外なのは、フランス支配時代の名残なのでしょうか、フランスパンがおいしいことです。特に首都ビエンチャンのフランスパンは格別だそうで、首都を訪れた人はお土産に沢山フランスパンを買って帰るほどです。

一村に一つのお寺がある

ラオスには約60の種族が住んでいて、低地ラオ、中地ラオ、高地ラオの3つに大別されます。中低地の田舎に住むラオ族は、木造の高床式の家に住んでいます。暑い国特有のスタイルですね。

気候は11月～5月の乾期と6月～10月の雨期に分かれます。4月が一番暑いですね。雨期は雨が1日のうちに降ったり止んだりします。

衣類を見てみると、男性はワイシャツにズボン、女性は「シン」と呼ばれる巻きスカートをはく人が多いです。「シン」は美しい色と綺麗な刺繡が特徴で実用性も備えています。こうした絹織物は安くて質が良く、特産品になっています。また、あまり知られていませんが、フランス支配時代に南部の高原地帯に植えられたコーヒー豆も特産品の一つです。

物価についてですが、ラオスは他の東南



アジアの国々に比べて物価が高いです。公務員の給料が日本円で6千円程度なので、生活が大変です。だから野菜等の農作物は、自分の家の畑で育てなくてはなりません。

本当にみんな何とかうまくやっているようです。

この国の主要宗教は小乗佛教です。国民は信仰厚く、男なら一生に一度は出家しなくてはならないと言われています。お坊さんの数がとても多く、一村に必ず一つはお寺があります。その一方、精靈信仰も根強く残っています。

ピーという守護精霊の存在を信じています。だからお化けなどの超自然現象を信じている人が多く、真剣な顔で話をしたりします。

寺院やクメール遺跡

最後は観光についてです。ビエンチャンでは、大きな仏塔で有名なタート・ルアン寺院やパリの凱旋門を模して造られた独立記念塔・アースサーフリーが有名です。また南部のチャムパーサック付近には、10～14世紀のクメール人の遺跡として知られるワット・プーがあります。

自然の見どころは、メコン川が急流変わる南部のコーン付近の大瀑布群が人気があるようです。

ト・ビエンチャンのタート・ルアン・パバーンは古都として国民から愛され、数多く存在する寺院が歴史を感じさせます。とても美しい町ですよ。

観光客はフランス人が多いですね。昔の植民地時代を懐かしんでいるのか分かりませんが、少数民族に会いにいくなど積極的な人もいます。それに比べると日本人の観光客はほとんどいません。まだラオスがそれほど観光化されていない、知名度が低いせいだと思います。



ラオスの人びとの特徴は、穏やかで争いごとを好まないことです。そして人前で馬鹿にされたり怒られるのを嫌がります。面子の問題なのでしょうか。だから仕事上で注意するのも気をつかってしまいました。

データ



〔国旗の意味〕

白丸は平和と仏教を表し青はメコン川と国土、赤は社会主義革命とそのための血を表す。1975年制定。

ラオス人民民主共和国

- ① 面積 237,000km²
- ② 人口 488万人(95年)
- ③ 首都 ビエンチャン
- ④ 主要言語 ラオス語
- ⑤ 民族構成 ラオ族60%、先住種族25%
- ⑥ 主要宗教 仏教
- ⑦ 通貨 キープ
- ⑧ 元首 大統領
- ⑨ 建国 1949年フランスから独立
- ⑩ その他 協力隊員の総派遣人数359人、栃木県からは7人



国際交流団体紹介

栃木フィリピン人協会

栃木フィリピン人協会（TOCHIGI FILIPINO SOCIETY=TFS）は、栃木県内に住むフィリピン国籍の者が集まって平成8年7月7日に結成された、任意の非営利団体です。TFSは、会員が重要視していることや希望していることを成就するために、次の目的を掲げて活動しています。①栃木県内在住フィリピン人の意見を日本人に理解していただけるよう努力する。②フィリピン人のイメージアップのため、様々な活動や事業などを展開する。③日本人にフィリピン人を正しく理解していただき、好意を持って迎えていただけるよう努力する。④悩みや苦しみを抱えるフィリピン人に対し必要な手助けをする。⑤会員同士の親睦をはかる。



▲とちぎインターナショナルフェスティバルに参加しフィリピン文化を紹介

ない。オシドリを見ることもできる。市内には夜遅くまでやっているフランス料理店が少ないため、コンサートやオペラ鑑賞後、利用される方も多いそうだ。

レストランはカジュアルな雰囲気で、メニューもリーズナブル。料理の他、ワインも豊富に取りそろえられている。料理長は帝国ホテルに長年勤務していた本格派。ソムリエの方もいるので、ある程度のリクエストも可能とか。現在創業113年ということで、舌平目のフライをメインディッシュに、ポタージュスープ、コーヒー、グリーンサラダが付いた「創業113年謝恩メニュー」が税込1130円、12月31日まで提供中。その他にも定食（ハンバーグステーキかボーカツレツ）1300円やシェフのお任せメニュー3500円もある。牛ロース肉を和風じたてにした牛ロース重セット（コーヒー付）1600円も人気がある。また、ハヤシライスやオムライスといった昔ながらの洋食屋さんのメニューも、ご要望に応じて提供している。

ワインはグラスワインが800円から、ボトルワインが3000円からある。ワインに余り詳しくない方でも、ソムリエがいるので必要とあればアドバイスを受けられる。ま

こんな店 あんな店

フランス料理 ポルドー

フランス料理「ポルドー」は、宇都宮ロイヤルホテル内にある、とても入りやすくしかも本格的な料理の味わえるレストラン。昭和36年に全面改装し、現在のような落ちついた趣になっている。窓からは中庭の日本庭園が見渡せる。市内にありながらこれだけの庭園が見られるのは他に類を見



▲舌平目のフライが美味しい「創業 113年謝恩メニュー」

知ってて得する なんでもQ&A

[外国人の在留資格変更／更新について]

在留の継続を希望する方の理由として、大きく2通りに分けることができます。1つは、現在の在留目的と異なった新しい目的が生じたために在留資格を変更し、引き続き日本に滞在したい、2つ目は現在の在留期限を超えて今までと同じ活動を行うためその在留期限を更新（延長）したいという理由です。いずれの場合にしろ、在留資格変更・更新の手続きは日本国内のみ可能です。有効期限が切れる3か月前から手続きできますので、日本滞在中に第三国へ旅行にいったり母国に一時帰国する予定のある方は、現在自分のもっている在留資格の有効期限を確認し、事前に手続きをしましょう。特殊な場合を除き、いったんされた在留資格の変更・更新は不可能となります。

また、手続きには必要な書類も多数ありますので、ある程度の余裕をもって準備しましょう。



歴史がつくりだす風格ある店内

た、毎年夏には、オーストラリアフェアと称して、オーストラリアワインを紹介している。大使館や政府観光局の後援で、イタリアやスペインワインの紹介も不定期で行っている。

市内に位置していて、ふらっと立ち寄れる場所があるので、映画の帰りやランチにでも立ち寄ってみてはいかがだろうか。あなたのお気に入りの食事ができるかも。

▶営業時間=7:30～22:00（ラストオーダー21:30）▶定休日=年中無休▶住所・電話=宇都宮市江野町11-16（オリオン通り）☎028-633-0331



情報発信 地域の国際交流案内

★日米NPOインターンシップ・プログラム参加者募集
 ▶目的=米国のNPOに従事する人々とのネットワークづくりを促進し、日米で共通の課題に取り組むアクションを起こすベースを作り上げる。▶実施時期=1998年7月中旬~8月中旬(1か月)▶実施場所=米国サンフランシスコ・ペイエリア▶募集対象=将来にわたり日本内外でNPOセクターに関わっていく意思を持つ人(英検2級程度以上のコミュニケーション能力が必要)▶募集人員=15~20名▶参加費=32万円前後(奨学金制度あり)▶応募締切=1998年4月28日▶問い合わせ=日米コミュニティ・エクスチェンジ東京オフィス☎03-3237-6612

★高校生エッセイコンテスト'98作品募集
 ▶テーマ=途上国や国際協力について考えていること(題は自由)▶応募資格=1998年4月現在の高校生▶募集締切=1998年5月11日(当日消印有効)▶応募規定=本文:400字詰原稿用紙(A4サイズ)4枚以内、別紙:400字詰原稿用紙(A4サイズ)に①住所(郵便番号)②氏名(フリガナ)③電話番号④年齢⑤性別⑥学校名⑦学年⑧どのようにしてこのコンテストを知ったか⑨海外旅行経験の有無を明記▶賞=特選4名は副賞としてパラグアイ、ベトナム旅行▶その他=作品は未発表のもの。著作権はJICAに帰属。応募作品は返却しない。▶応募・問い合わせ=JICA関東支部〒336-0002埼玉県浦和市北浦和4-5-5北浦和大栄ビル7階☎048-834-7770

第2回とちぎコミュニケーションネットワークの集い「書道」&「福笑い」

在県外国人のネットワークを目的とした「とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)」のメンバーとその家族を対象に、日本文化を体験してもらう「第2回とちぎコミュニケーションネットワークの集い」を、2月1日(日)、とちぎ国際交流センターで開催した。

今回のテーマは「書道」と「福笑い」。書道はTIAの文化交流サービスバンクに登録している栗坪容子さんと荒巻幸恵



くつた顔に大笑い「福笑い」では自分のつ

さんに、「福笑い」は栃木県立宇都宮女子高校ユネスコ部の生徒さんたちに講師を依頼。会場に集まった25名のTCNのメンバーは、講師の指導のもと、慣れない手つきで筆を持ち、手本の漢字を見ながら習字に挑戦したり、また文化体験室の畳の上で行った「福笑い」では、できあがった動物や人物の顔に大笑いしながら日本の遊びを楽しんだ。

TCNのメンバーは常時募集しているので、加入希望者はTIAまでどうぞ。



▲熱心に習字に挑戦するTCNメンバー

TIA日誌

1998年1月31日~1998年2月28日

- 1/19 日仏青少年短期研修事業第1回研修会(センター)
- 1/20 浙江省公務員考察団理事長表敬訪問(参与室)
- 1/24 青年海外協力隊派遣隊員家族懇談会及び帰国隊員報告会(センター)
- 1/25 国連英検第2次試験(センター)
- 1/26 日仏青少年短期研修事業第2回研修会(センター)
- 1/28 栃木県南米移住者子弟短期研修生受

入(~2/16)

- | | |
|------|--|
| 1/30 | 海外移住家族会研修会(センター) |
| 2/1 | 外国文化体験講座・TCNの集い(センター) |
| 2/5 | 北関東三県国際交流協会連絡会議(センター) |
| 2/9 | 浙江省定期協議団理事長表敬訪問(参与室) |
| 2/10 | 県費留学生・海外技術研修員・南米短期研修生スキー研修(~2/12・日光湯元) |
| 2/19 | 日仏青少年短期研修事業第3回研修会(センター) |
| 2/28 | 日仏青少年短期研修事業第4回研修会(センター) |

夢をかたちに
心に残るウェディング

98春・秋のご婚礼予約承り中

婚礼・宴会・会議・宿泊・レストラン・ラウンジ

K フラサ イン・くろかけ

〒320-0043 宇都宮市桜4丁目1番19号
 TEL 028-622-1981 FAX 028-627-9195

旅のトータルプロデューサー、 日本旅行

国内370ヶ所・海外25ヶ所のネットワーク

お問い合わせは  **日本旅行**

宇都宮支店 TEL028-643-3100(代) 宇都宮市駅前通り1-4-6
 栃木県庁内旅行コーナー TEL028-623-3470 宇都宮市塙田1-1-20

TIA Information Corner

★日本語講座 4月開講

▶期間＝4月11日～9月26日。毎週土曜日
14:00～16:00▶対象＝在県外国人 ▶場所＝とちぎ国際交流センター会議室 ▶受講料＝無料（ただしテキスト代は実費）▶申込み及び問い合わせ＝TIA日本語講座係 028-621-0777

★JAPANESE LANGUAGE CLASS

REGISTRATION, BEGINNING IN APRIL
▶Date : Every Saturday 14:00～16:00. From April 11 to September 26.
▶Participants : Prefectural foreign residents.
▶Location : Meeting room of the Tochigi International Center.
▶Tuition : Free, however students have to purchase a textbook.
▶For more information, call TIA at 028-621-0777.

■TIAライブラリー案内 (お借りしたい方はTIAにどうぞ)

●ネパール短編小説集／ナソ・忘れ形見



裁判官としてネパール民衆の困難と苦しみを觀察・経験した作者グルプラサッド・マイナリによる短編小説。情勢に流されてしまう中間層の男女、不正と暴虐に苦しむ小作人、日雇い人夫、農民、慣習に囚われる女性等の登場人物が織りなすストーリーは、ネパールの文化、民衆の生活、社会状況等を見事に描いている。表題の他、「ご近所」「つぐない」「幸い薄き人生」「殉國者」等11編を収録。(グルプラサッド・マイナリ著／野津治仁訳／穗高書店発行／1957円)

●“女らしい”ってなに？“男らしい”ってなに？～男女の新しい行き方を考える本



ジェンダー（社会的）の視点でのグローバル教育教材として、青年海外協力隊OG・OBが任国の人々と共に生活した体験を通して考えた「女性と男性の新しい生き方」を探るアクティビティである。対象は小学校高学年から高校生だが、アレンジ次第で小学校低学年から社会人まで使える。アクティビティの内容は「イメージ」「教育」「仕事」「健康」の4章に分かれ、ねらい、準備、進め方、応用等が書かれてある。身近なことを題材に、ジェンダーの問題を考えながら国際理解を深めていくことができる価値ある教材。(WAA著／㈳青年海外協力協会発行／1200円)

●教育現場のポルトガル語〔日本語対照マニュアル集〕



就労を目的とした日系ブラジル人の増加は、同時に学校における児童・生徒の増加に繋がっている。本書は、学校現場の者に役に立つポルトガル語を掲載した指導資料である。内容は授業、成績評価、徴収金、朝礼、遠足、運動会など、学校内の様々な場面に必要なポルトガル語が読み方とともに書かれている。ポルトガル語学習者にもためになる。(田所清克・伊藤奈希砂共著／泰流社発行／4000円)

●クメールの華～アンコールへの旅



カンボジア・アンコール遺跡の文化的景観の魅力や歴史とともに、国際協力のもとに行われている、日本の専門家チームや世界各国による遺跡の保存修復活動の様子を知ることができる。(ユネスコ制作／ビデオ)

●巨大ダムの終り～人びとは開発を問う



巨大ダムによる開発が周辺の環境や地域の住民にどんな影響を与えるのかを、インド、ブラジル、中国の巨大ダム開発の実例からその問題点を取り上げ、開発の意義を問う。(アジア太平洋資料センター制作／7000円／ビデオ)

TIA賛助会員募集中！

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。

○冬季オリンピックで日本中が盛り上りましたが、開催期間中、南米短期研修生の引率でパラグアイから本県を訪れた笹沼道男団長も、日本選手の活躍に大喜び。特にスキージャンプの船木選手の飛型の美しさに感動していました（ちなみに私Uも同感で、あれは芸術と言えるでしょう）。

○県費留学生、技術研修員、南米短期研修生が全員参加した日光湯元でのスキー研修は、講師の指導のもと、3日間で皆さんけっこう上達しました。白銀のなかを祖国代表のオリンピック選手のような気分になって滑っていたのかもしれませんね。

※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄附金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。つきましては、当協会の事業にご賛同下さる各企業、団体、ほか皆さまからのご出捐をお願いしております。

